



多くの人で賑わう西日本菊花大会(神門前)



### 第三十二回西日本菊花大会閉幕 内閣総理大臣賞に 北九州市の池田 昭氏

西日本最大の菊花の祭典、第三十三回西日本菊花大会(主催 宗像大社菊花協会会長 高島雪彦、玄海観光協会会長 吉武邦彦、後援 福岡県他)が、先月二十三日盛大裡に閉幕した。

大会開催にあたり宗像地区商工会青年部、宗像大社菊花有志の御奉仕により、展示用のハウスを設営。また協賛会社各社のトラックで、南は鹿児島、西は長崎、東は山口まで九州各県の菊花愛好家が丹精込めた菊を搬入し、宗像青年会議所の協力のもと展示した。

特に、毎年特別展示されている地元玄海小学生の出品菊は、今年から五、六年生の大輪に加え、三、四年生も小菊を制作し、一人一人がメッセージをつけ、可愛らしく展示された。

大会審査は十月三十一日、福岡県農業試験場園芸研究所野菜花き部長 中村 新一氏を審査長として、総勢六名で行われた。出品は大輪・盆栽・懸崖・特作九州山口各県対抗大輪補助特別競技

#### 12月祭事暦

- 毎月1・15日 月次祭  
午前10時 高宮祭  
第二宮・第三宮祭  
午前11時 総社祭
- 12月14日  
古式祭 午前6時  
御座祭 午前6時30分  
鎮火祭 午前10時
- 12月19日 午前11時  
松尾神社祭
- 12月23日 午前11時  
天長祭
- 12月31日 午後3時  
大祝式・除夜祭

の五部門に分かれ、各々非常に厳しい出品基準、審査基準により作品の競技がなされ、今年も優秀な出品花が多かった為、優秀つけ難く審査は困難を極めた。総評として「今年は近年にない冷夏となった為、日照不足による開花遅れの影響がみられ、大会審査時にはどの菊も例年より開花が若干遅れた。しかし、その中でも大臣賞上位十二作品受賞花は、色彩・調和・盆養とも例年以上の出来栄であったとの発表がなされた。

本年の十一月も宗像大社の境内は西日本菊花大会が盛大に開催され名人達の優美な作品が展示されている。



大輪・懸崖・盆栽と基本的な部門に分かれ技を競う大会であるが、特に盆栽部門は仕立て方に日本古来の盆栽道という限らない芸術性の追求という重いルールに則り作出品する大きな特徴がある。本来草花であるキクを風雅な古木の樹姿にすることに研究の積み重ねがある。

近年このような菊盆栽作りにおいて新たな論争が全国的に起こっている。根上りの木付・岩付仕立てへの新素材の導入の可否である。従来、木付用の素材は深山に分け入り木の根を掘り起こし細工を加え、又岩付は岩石にノミを入れ彫刻し大自然を凝縮した断崖絶壁を作り出す。他方は新素材の発泡スチロールを細工・彩色し深山幽谷を表現する。盆栽道を一途に探求して来たベテランの作者にしてはこの新素材作りが邪道に思われ堪らないと言っている。一方新素材派は古い伝統の中に新たな技術を入れることが発展につながると主張する。しばらくは両者のせめぎ合いが続くであろう。

近頃様々な分野で似たような論争があると思われるが、伝統と歴史の継続のあり方について日本人は真剣に考えるべき時ではないだろうか。

(H1)

神具・装束 結婚式場洋品

福岡店 〒812-0045福岡市博多区東公園2-31  
電話 福岡(092)651-9456番

株式会社 井筒 本店 〒600-8231京都市下京区油小路六条北入  
電話 (075)341-3341(代)~4番  
(075)343-3341番

木組の家 匠の技

総合建築業 株式会社 弘江組

〒811-3406福岡県宗像市稲元1025 電話(0940)32-2567





今年の内閣総理大臣賞

各賞、受賞者は次の通り(敬称略)

- 内閣総理大臣賞 池田昭(八幡西区)
- 農林水産大臣賞 田中昭治(前原市)
- 文部科学大臣賞 高地茂敏(福岡市)
- 総務大臣賞 富金原正史(宗像市)
- 法務大臣賞 鳥巢敬次(八女市)
- 外務大臣賞 家宇治常規(前原市)
- 財務大臣賞 桜木為生(田川市)
- 厚生労働大臣賞 船越順(大野城市)
- 経済産業大臣賞 石橋善治(福岡市)
- 国土交通大臣賞 榊井弘巳(嘉穂郡)
- 環境大臣賞 時田義光(鳥栖市)
- 内閣官房長官賞 松尾常喜(大野城市)
- 防衛庁長官賞 三浦澄夫(宗像市)
- 衆議院議員山崎拓賞 田畑実志(八幡東区)
- 衆議院議員渡辺具能賞 中尾利夫(小倉南区)
- 宗像大社宮司賞
- 船越順(大野城市) 小森一平(門司区)
- 佃俊美(田川市) 馬場園馨(宗像市)
- 九州農政局長賞 木下みつ子(大野城市)
- 福岡県知事賞
- 生武静男(鳥栖市) 浜田豊子(粕屋町)
- 赤金国弘(田川市) 榊井藤子(嘉穂郡)
- 佐賀県知事賞 生武和子(鳥栖市)
- 熊本県知事賞 境 正(土市)
- 長崎県知事賞 馬場正晴(長崎県)
- 福岡県議会議長賞
- 松尾常喜(大野城市) 犬童重光(八幡西区)

- 石田進(直方市) 木下みつ子(大野城市)
- 福岡県町村会長賞
- 成田力(オール水巻町) 内田雲(甘木市)
- 榊井弘巳(嘉穂郡) 御田良知(天宰府市)
- 福岡県町村議会議長賞
- 坂本栄(中間市) 松野正徳(小倉南区)
- 平島清(山田市) 石原睦生(都城市)
- 福岡県教育委員会賞
- 時田義光(鳥栖市) 坪根弥一(小倉南区)
- 林長四郎(直方市) 重光由紀子(宗像市)
- 全日本菊花連盟賞
- 宮地隆治(武雄市) 倉田征喜(大野城市)
- 九州山口花弁園芸連絡協議会長賞
- 天本吉明(鳥栖市) 野村義光(田川市)
- 古川清茂(佐賀県) 千々和正信(八幡西区)
- 九州花弁卸売市場連合会長賞
- 宮野克己(朝倉郡) 野中昭夫(佐賀県)
- 真崎憲(宗像市) 山口勝喜(佐賀県)
- 福岡県農業協同組合中央会長賞
- 保田直宏(宗像市) 田中正一(甘木市)
- 上野幸隆(宗像市) 石原睦生(宮崎県)
- (社)福岡県観光連盟会長賞
- 石橋善治(福岡市) 田中正美(甘木市)
- 水田ツルミ(宗像市) 妹川尚生(佐賀県)
- 福岡県農林事務所賞
- 倉田征喜(大野城市) 竹之内忍(行橋市)
- 千々和正信(八幡西区) 堀井朝人(八幡東区)
- 福岡県中小企業経営者協会会長賞
- 江田常夫(福岡市) 野林伸二(大牟田市)
- 野中昭夫(佐賀県) 生武静男(鳥栖市)
- 福岡県産業振興協議会長賞
- 境 正(土市) 占部正彦(宗像市)
- 宮原八朗(甘木市) 川崎新一(宮崎県)
- 九州旅客鉄道(株)賞
- 陶山正利(天宰府市) 野村義光(田川市)
- 福岡県花卉園芸連合会長賞
- 丹下民平(戸畑区) 花田憲一(若松区)
- 佐藤秀俊(行橋市) 安田剛(鹿兒島県)
- 福岡県花卉市場協議会長賞
- 石丸五年(鳥栖市) 池上福元(静男門司区)
- 深川ユキ子(小倉南区) 中江良江(宗像市)

- 粕屋地区市町長協議会長賞
- 堀井朝人(八幡東区) 中垣静夫(三井郡)
- 大畑敏(小倉南区) 洲上武俊(佐賀県)
- 遠賀郡町長会賞
- 高橋良和(遠賀町) 山根正雄(戸畑区)
- 宗像郡町村会長賞
- 妹川尚生(佐賀県) 岸本敏彦(若松区)
- 小林利美(鹿兒島県) 竹下チヲ(宮崎県)
- 宗像郡町村議会議長賞
- 関本和代(嘉穂郡) 園田秋博(宇土市)
- 村上和夫(大野城市)
- 遠賀町長賞
- 要博文(遠賀町) 波多野松男(八幡西区)
- 芦屋町長賞
- 下村運(遠賀町) 松尾勇(佐世保市)
- 水巻町長賞
- 許斐保(飯塚市) 栗田義信(鞍手郡)
- 古賀市長賞
- 高山健次(嘉穂郡) 大塚孝二(大分市)
- 宗像市長賞
- 宮本正宗(宗像市) 西山時秋(門司区)
- 田中正一(甘木市) 御田良知(天宰府市)
- 津屋崎町長賞
- 寺下政国(鳥栖市) 井手直義(天宰府市)
- 福岡町長賞
- 山口義實(八幡西区) 見崎久義(大分市)
- 大島村々長賞
- 田代定(飯塚市) 山領松行(佐賀県)
- 宗像市議会議長賞
- 田中祐成(佐世保市) 瀬里士雄(大野城市)
- 安田剛(鹿兒島県) 安部由夫(大分市)
- 宗像市教育委員会賞
- 富金原初野(宗像市) 宮野克己(大野城市)
- 松内英明(宇土市) 古川美代子(小倉南区)
- 玄海観光協会賞
- 石丸五年(鳥栖市) 永田ツルミ(宗像市)
- 宗像大社菊花会長賞
- 井手直義(天宰府市) 岡田慎子(大野城市)
- 宗像ネットワーク(宗像市)
- 宗像農業協同組合会長賞
- 一世勝幸(大村市) 伊藤康雄(大野城市)

- 宮原善枝(宗像市) 鈴木脚夫(小倉北区)
- 宗像地区商工連長賞 石田桂子(宗像市)
- 津屋崎町商工会々長賞 寺下政国(鳥栖市)
- 宗像市商工会々長賞 広未啓子(宗像市)
- 福岡町商工会々長賞 下村運(遠賀町)
- 玄海町商工会々長賞 緒方慶子(大野城市)
- 大島村商工会々長賞 加藤重喜(大分市)
- 宗像大社氏子会長賞
- 下田一義(宇土市) 花田憲一(若松区)
- 園田秋博(宇土市)
- 宗像ライオンズクラブ会長賞
- 堀川栄(宇土市) 岸本敏彦(若松区)
- 安達庸二(天宰府市) 上田学(小倉南区)
- 宗像ロータリークラブ会長賞
- 松内英明(宇土市) 関本紘一郎(嘉穂郡)
- 林長四郎(直方市) 堀川栄(宇土市)
- 玄海ホテル旅館組合会長賞
- 一世静子(大村市) 安永儀三郎(若松区)
- 宗像青年会議所賞
- 中垣静夫(三井郡) 仰水保(中間市)
- 熊健三(宗像市) 大庭笑子(鞍手郡)
- 宗像地区商工会青年部長賞
- 緒方進吉(宇土市) 高橋良和(遠賀郡)
- 堤勇孝(佐世保市) 松尾正勝(直方市)
- ヨシカネ特別賞 竹下次男(宮崎県)
- 中原フーア(賞)
- 堤勇孝(佐世保市) 後藤勝司(大分市)
- 立花清一郎(若松区) 岩川健一(若松区)
- (株)サカタのタネ賞
- 大坪常憲(佐世保市) 波多野松男(八幡西区)
- 高山健次(嘉穂郡) 栗田義信(鞍手郡)
- (有)マルタ小泉商事賞
- 田代定(飯塚市) 綱脇倉子(宗像市)
- 特別奉納
- 高島雪茂(遠賀町) 竹内雪豊(小倉南区)
- 古波蔵正忠(八幡西区) 栗田義信(鞍手郡)
- 重復奉納作品
- 松尾常喜(大野城市) 妹川尚生(基山町)
- 寺下 政国(鳥栖市)
- 宗像学習ネットワーク
- 森弘喜 武田重矩 吉田睦夫 林正博 石川



玄海小学校の生徒たちの出品菊



宗像の特産品を販売した「一服茶屋」

定典、永島加代子、春日野佳子、半田茂之  
 宗像菊友会  
 馬場園馨、石田桂子、上野幸隆、綱脇倉子、富  
 金原正史、富金原初野、重光由紀子、真崎憲  
 三浦澄夫、永田ツルミ、宮本正、熊本健三、広  
 未啓子、中江良枝、占部正彦、宮原善枝  
 九州山口各県対抗大輪補助特別競技  
 本年度優勝  
 (佐賀県) 宮地隆治、山口勝喜、古川清茂



# 表千家家元奉仕 献茶祭齋行

去る十月十七日、当大社秋季恒例の献茶祭が齋行された。

この献茶祭は、伊勢の神宮最重祭儀「神嘗祭」当日祭に合わせ、毎年表千家家元直々の奉仕により齋行されている。

茶の道志す者にとつては家元の御点前を拝観することができ、望の行事で、今年で四十回目を迎えるこの祭典は、昭和三十七年当時の宗像大社復興期成会々長、故出光佐三氏の御尽力により実現



表千家々元 千 宗左宗匠

したもので以来、出光興産株式会社奉納のもと恒例となっている。

祭典当日は小春日和の天候に恵まれ、早朝より県内はもとより山口・九州各県の同門会々員をはじめ茶道に勤しむ人々が続々と参集し、境内には和服姿の女性達で埋め尽くされた。

定刻十一時、一鼓を合図に奉仕神職、表千家々元而妙齋千宗左宗匠以下介添役の家元関係者、出光興産株式会社出光昭介名誉会長他役員は祓舎にてお祓いを受け本殿

## 茶道とは

元来、お茶の文化は中国から伝えられたものですが、我が国ではお茶をただ単に飲んだり、喫したりすることとまらず、人の心・精神の向上をはかるもの、すなわち茶の湯の道「茶道」として確立された。

室町期、村田珠光により茶道は産声を上げ、竹野紹圃を経て千利休に到る。利休は禅の精神を取り入れ、簡素和敬静寂を本体とする侘茶を広め大成する。

そして、利休の子孫が表千家、裏千家、武者小路千家の三家に分かれて今に伝わり、お茶は、人の心を映し出す美德、美意識、審美眼、人との交流と心の触れ合い、交際における主・客の思いやりと感謝の気持ち等々その様な和の心を茶の心として大切に育んで来た日本固有の文化遺産となつてゐる。

尚、献茶とは神仏にお茶を奉る行為を指し、風習の中に、家の神棚、祖霊舎、仏壇等に毎朝一番茶を差し上げるとお茶も同様であるが、茶の道に携わる人の間では、点前をして威儀を正して神社仏閣に献上する儀式のことを言つ。御神前には献茶、御仏前には供茶と区別される。



敬虔な祈りを捧げる 出光昭介 名誉会長

へと参進し、それぞれ所定の座に着座すると献茶祭が齋行された。祭典は、齋主が祝詞を奏上、続いて献茶の儀が執り行われた。家元は拝殿にしつらえられた風炉前に端座し、切柄杓の手許違わず、淀みない清らかな御点前が披露さ

## 古式祭の御案内

八〇〇年の伝統をもつ、宗像地方の特殊神事「古式祭」が左記日程で執り行われます。振るつて御参列下さい。

日時 十二月十四日(日)  
祭典 午前六時

会場 宗像大社本殿  
御座 午前六時三〇分～一番座(一番座Ⅱ五〇名づつ、五番座まで)

会場 宗像大社清明殿  
御座料 一人Ⅱ、〇〇〇円

御座券は当日午前六時～販売致します。(例年午前五時三〇分位から多くの方が並び始めます。)

古式祭とは、神職・氏子・崇敬者全ての民が、宗像三柱大神様の神恩に感謝して「御座」を開き、御神前にその年収穫されたもので作った食事を神様と共にいただく「神人和楽」の集いです。

この「御座」では蜜柑の原種である「九年母」、宗像市江口の浜

れ、点てられた濃茶・薄茶の二服が神職の手により神前に奉献された。献茶の儀の後、齋主、家元、出光名誉会長、同門会代表が各々玉串拝礼を行い一時間余に及ぶ本年の献茶祭も無事終了した。

献茶祭終了後、参列者は儀式殿に設けられた出光席、又齋館に設けられた同門会席の副席へ交互に参席し、茶席に掲げられた掛軸や茶道具の逸品を鑑賞しながらお茶を戴き「侘び・寂び」の境地に浸り、至福の一刻を楽しんだ。

でこの時期しか採取出来ない「ゲバサ藻」、スボ稲穂の蘘を挿したご飯など、現代ではなかなか口にする事の出来ない、珍しいお膳が準備されます。また会食後は、翁面・神盃・御札などが授与される「福引き」も行われます。

例年、一座Ⅱ五〇名で五番座まで、約二五〇名の方が参列されます。



古式祭の様子





# 第三十二回宗像大社献詠短歌大会

三十二回目を迎えた宗像大社献詠短歌大会(主催：宗像大社歌会、後援：毎日新聞社)が十一月十六日(日)午前十時から当大社清明殿で開催された。

この短歌大会の特色は、献詠詠草を宗像大社御神前に奉納しながら、伝統文化を護持しているため、他の短歌大会と違い当日の参加が受賞条件となっている。

当日は前日の雨も止み快晴となり、七五三詣、観菊者で参道は溢れ変える中、約七十名の参加があった。

まず、今回事務局に寄せられた参加者直筆の詠草「二五七首」を御



今年は約70名の方々が参加されました

神前に捧げる神事を行い、参加者は神妙な面持ちで臨んだ。そして当大社高向権宮司がこの短歌大会の歴史を交えた挨拶をし、毎年参加者が楽しみにしている講演に入った。

今年には福岡県歌人会副会長を務められている青木昭子先生を、糸島郡二丈町からお招きし「心にひらく年々の花」と題して行なった。

西行・高浜虚子・本居宣長ら歴史上の人物、高野公彦(コスモス短歌会選者)、山笠井喜美枝(福岡)、安永路子(熊本)、伊藤一彦(宮崎)ら現代歌を代表する歌人らの花に関する歌を取り上げ、四季の花・心の花・身体の花についてユーモアを



高向権宮司から表彰される勝原たか子さん

交えながら、一同楽しく勉強させていただいた。

入選歌並びに各賞受賞者は次の通り(敬称略)

〈特別賞〉  
福岡県知事賞  
勝原 たか子 (中間市)

つきかげ月光の夜はしるがねに照るらむか映ひと面に蕎麦の花咲く

宗像市長賞  
永富 臻 (宗像市)

神木の梢に朝日は百千の光の征矢となりて射しあつ

福岡県教育委員会賞  
小田 イセ (宗像市)

神苑に照り初む朝日のかかやきに白衣の巫女の姿浮き立つ

宗像大社宮司賞  
木梨 菅子 (福岡市)

よ夜は漁りする漁夫が無縁に交わりしおり博多中洲の飲屋のはなし

毎日新聞社特別賞  
石田 こまよ (遠賀郡岡垣町)

大陸に埋めし吾が子の便りだと娘は愛しく黄砂に触れる



特別賞 受賞者。右から上位5名

〈選者賞〉  
青木賞 岩石 敏子 (筑紫野市)

中西賞 天野 玲子 (宗像市)

山賞 高屋 淳子 (福岡市)

江口賞 竹内 敬子 (直方市)

大野賞 諸富 郁 (久留米市)

〈互選賞〉  
宗像大社歌会会長賞 磯部 静江 (宗像市)

宗像大社氏子会会長賞 高木 智子 (宗像市)

宗像市教育委員会賞 石松 壽子 (宗像市)

毎日新聞互選賞  
宮原 まずみ (福岡市)

## 宗像大社歌会の藤井浩子さん 福岡市総合短歌大会で 福岡歌人会賞に輝く

十月十一日(土)福岡市南区で開催された福岡市総合短歌大会(選者：一〇人の九州でも権威ある大会で、当大社歌会幹事の藤井浩子さんが福岡市歌人会賞の榮譽に輝いた。昨年初めて同大会で入選し、今年歌人会賞の受賞となった。

藤井さんは昭和六年、樺太現ロシアでお生まれになり、現在七十二歳になられる。一男一女に恵まれ現在はご主人と悠々自適の暮らしを送られている。ここに到るまで、ご主人の仕事の關係上、全国中を引越され、昭和五十八年に宗像の風光

田志 紀代子 (宗像市)

小方 玲子 (宗像市)

中村 勇 (宗像郡福岡町)

佐々木 京子 (宗像郡津屋崎町)

井口容子 (春日市) 石松弘次 (宗像市 北)

蕪古賀市 吉田ますみ (宗像市) 浜口秋雄 (中間市) 山 さが (北九州市) 佐々木和彦 (宗像郡津屋崎町) 野口幸三 (宗像郡福岡町) 池浦千鶴子 (宗像郡福岡町) 鬼塚 富由子 (遠賀郡水巻町)

## 〈佳作〉

明媚なところに惹かれ、十九回目の引越しでようやく根を下ろされた。歌は昭和五十六年、仙台にいる頃に始められ、今回の受賞などここ数年めきめき力をつけてきています。

現在は毎月の当大社歌会互選会をはじめ、当大社歌会に関して御尽力いただいている。今後の更なるご活躍をお祈り申し上げます。

## 福岡歌人会賞受賞歌

おとこはん、おなごはんとて書き分けし  
お手洗借り大徳寺出づ





# 第三十二回宗像大社秋季奉納盆栽展

第三十二回宗像大社秋季奉納盆栽展が、十一月八〜十二日の五日間にわたり本殿西側の境内で開催された。

八日の午前八時から、宗像大社奉納盆栽会員、担当神職、管理員の手で会場の設営が始められ、会場が完成すると出品盆栽を各地区より搬入。優美な黒松や五葉松などの松柏盆栽をはじめとして秋にふさわしい山柿・紅葉・姫林檎な

どの雑木盆栽や小品盆栽などが出品され、昨年にも増して秀作を集めた開催となった。

この盆栽展は、神郡宗像の各地区(宗像市・福岡町・津屋崎町)の盆栽愛好家が「宗像大社の御神徳の発揚に努め、併せて会員相互の親睦を計り、日本の伝統と格調高き美を遺憾なく表現出来る盆栽の普及盆栽技術の研鑽に励み、盆栽発展の一助とする」ことを目的に、



盆栽展

宗像大社奉納盆栽会現任在任(石松重敏会長)を結成して今日に至る。毎年春と秋の年二回盆栽展を開催しており、秋は今回で第三十二回を迎えた。

会期中は生憎の雨に降られる事もあったが、雨露に濡れた盆栽も日の光を受ける事により瑞々しく映え、朱塗りの御本殿と盆栽の秀麗な景色に、しばし足を止め見入る人々も多かった。

# 少林寺拳法奉納演武大会

十一月十六日、当大社本殿横で恒例の少林寺拳法奉納演武大会が開催された。

我が国の少林寺拳法は、宗道臣先生が大陸で伝授を受け戦後広められたもので、宗像地区でも各所で教室が開かれ盛んに行われている。

演武大会は、少林寺拳法宗像市連合会の主管で開催され、拳士集合神前に一礼の後、拳法独自の鎮魂の儀式があり演武が始められ、指導者・社会人の部、福教大拳法

部、少年の部と三者に分かれ繰り広げられた。指導者の演武には、技法の成熟が伺われ福教大生のそれには若々しく力漲る姿があり、それぞれに拳法の素晴らしさを伝えるものがあつた。

その中で何より声援が上がったのはチビツ子拳士による組演武であつた。技量はまだまだ未熟であるが何とか相手を組み伏せようとする姿に親御さん等から盛んに歓声がかたました。

# 第三十回宗像本因坊戦

宗像本因坊に福永雅道氏

十一月九日(日)宗像本因坊戦(五・六段者)、宗像大社奉納囲碁大会初段〜五段が当大社斎館・清明殿で、約二〇〇人が参加し開催された。

囲碁大会は初段〜五段までを六人一組に別け、各組ごとに優勝者を決めた。今年は三十四組二〇四人が参加し、熱戦を繰り広げた。宗像本因坊戦は五、六段の高段者で行われ、文字通りその年の実力ナンバーワンを決める大会で、盤

側が集まった観戦者は固唾を飲んで勝負の行方を見守った。熱戦の末、今年の宗像本因坊には津屋崎町の福永雅道氏に輝いた。成績は次の通り

- 宗像本因坊 福永 雅道 (津屋崎町)
- 準優勝 石田 徳房 (宗像市)
- 三位 向井 麻郎 (福岡町)



少林寺拳法



宗像本因坊戦





# 神宮大麻・宗像大社神符

## 頒布始祭

新年に頒布する「神宮大麻」と「宗像大社神符」頒布始祭が、十一月二十日午前十一時当大社祈願殿で斎行された。

当日は西高辻信良福岡県神社庁副庁長(天宰府天満宮宮司)、中村侃同宗像支部長(摩利支神社宮司)をはじめ、宗像市・郡内の神職総代約二百名が参列した。齋主は阿部信同副支部長(宮地嶽神社禰宜)が奉仕し、「神宮大麻」



ご挨拶される西高辻 副庁長

は沖宗利宗像支部総代会長に、「宗像大社神符」は安部照生宗像大社氏子会会長に手渡された。

祭典後は清明殿で式典が行われ、国歌斉唱、神宮並びに皇居遥拝、敬神生活の綱領唱和、引き続き、永年に亘り神社界に寄与された神社功労者が表彰された。

平成十六年の新しい年を迎える氏子・崇敬者の皆様方には、真新しく清浄な「神宮大麻」「宗像大社

### 神宮大麻とは

皇室の御祖先神である「天照大神」をお祀り申し上げ、我が国最貴の社である「神宮(伊勢神宮)」のお札。現在は「神宮大麻」が正式名称だが、かつては「御祓さん」「御祓大麻」と称され、中世に神宮の御神徳を拡げるため「御師」と呼ばれる神宮の神職によって、日本全国津々浦々まで頒布された。近代、明治天皇の恩召しにより、明治五年から「御師」に代わり「神宮司庁」が全国に頒布。名称も「神宮大麻」と改称して、皇大神宮(伊勢の神宮)の大神璽として各戸に頒布された。「神宮司庁」内には「大麻課」が置かれ、「神社本庁(東京都渋谷区)」に頒布の一切が委託され、全国各県の神社庁を経由して、神職・氏子総代の奉仕と努力で各戸に頒布されている。元来「正直」「清浄」を旨とする日本人は、年の瀬に真新しい「神宮大麻」を受け、家庭の神棚に奉斎し、清々しい気持ちで新年を迎え、家門の弥栄を祈ってきた。

神符」を神棚に奉斎され、清々しい気持ちでお迎え下さい。表彰を受けた神社功労者は次の通り(敬称略) 宗像大社 氏子評議委員



新しい神宮大麻を受け取る沖 宗利会長

藤田 藤雄(大島村) 宗像大社 氏子評議委員

奥村 保夫(福岡町) 須賀神社 総代

西山 功(宗像市) 宮地嶽神社 禰宜

浄見 讓津屋崎町) 宗像大社 権禰宜

渡邊 秀丸(宗像市)

## 除夜祭・大祓神事の御案内

年の瀬を迎え、皆様には御多忙の御事と拝察申し上げます。今年一年を締め括る「大祓神事」「除夜祭」が近付いて参りました。この大祓神事は「年越の大祓」と称し、夏(七月三十一日)に行われた夏越の大祓以後半年間の「罪」「穢れ」を祓い清め、清々しい心身で新年を迎えていただくための神事でございます。大祓神事に引き続き行われる除夜祭は、この一年に当大社で行われてきた何百回という祭典の中でも最後に位置する祭典で、この祭典が終ると、元旦午前零時まで神門は閉じられます。 日 時 十二月三十一日午後三時、場所 神門前 尚、遠方または参列出来ない



除夜祭・大祓神事の様子



祝詞を奏上する阿部副支部長



# 厄年とは

厄年とは人生の節目であるとともに、一生のうちで災い・災難といった『厄』にあうおそれが多いため、忌み慎まねばならないという年です。

特に男性の四十二歳、女性の三十三歳は『天厄』とされ、その前後の年も『前厄・後厄』とあって、最も慎み忌むべき年とされています。我々日本人の永年の生活習慣から発生した、我が国独自の慣習で

昭和31年	昭和28年	昭和25年	昭和21年	昭和20年	昭和19年	昭和18年	昭和16年	昭和15年	昭和12年	昭和9年	昭和7年	大正12年	生まれ年
厄年	厄年	八方塞・厄年	厄年	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	厄年	厄年	厄年	八方塞	八方塞	厄
昭和54年	昭和52年	昭和48年	昭和47年	昭和46年	昭和44年	昭和43年	昭和42年	昭和40年	昭和39年	昭和38年	昭和37年	昭和34年	生まれ年
後厄(男)	八方塞	前厄(女)	大厄(女)	後厄(女)	前厄(女)	八方塞・大厄(女)	後厄(女)	厄年	前厄(男)	大厄(男)	後厄(男)	八方塞	厄
		平成16年	平成10年	平成7年	平成4年	平成元年	昭和62年	昭和61年	昭和60年	昭和57年	昭和56年	昭和55年	生まれ年
		厄年	厄年	厄年	厄年	厄年	前厄(女)	大厄(女・八方塞)	後厄(女)	厄年	前厄(男)	大厄(男・八方塞)	厄

ありますが、厄年を迎えると我々の先祖は神社に足を運び、お祓いをうけ避けてきました。神社でお祓いをうけ、この一年を清々しい気持ちでお過ごしください。

八方塞がり

陰陽道での方向に向かって

事をして、不吉の結果を生ず

る年齢。転居、結婚、新しく事

をはじめる方は要注意。

暗剣殺

来年はありません。

## 交通安全 宗像大社初詣 交通規制のお知らせ

期間	
●平成15年12月31日	午後9時から 平成16年1月1日 午後9時まで
●平成16年1月2日～1月4日	午前9時から午後7時まで
※交通状況により、規制時間を変更することがあります。	

年末年始祭典			
12月31日	15:00	大除夜	式祭
	引き続き	社地	祭
1月1日	7:00	元旦	祭
	引き続き	高宮	祭
	〃	高宮	祭
	〃	第二宮	祭
1月2日	9:00	新年二日	祭
1月3日	〃	新年三日	祭

宗像大社の初詣期間中、交通安全と円滑を図るため、臨時交通規制を実施します。みなさんのご協力をお願いします。

凡 礼	
	宗像大社順路
	一方通行
	歩行者用道路
	車両進入禁止
	交通信号機
	駐車場



●飲酒運転を追放しよう ●交差点の交通マナーを高めよう ●シートベルトとチャイルドシートの着用を徹底しよう ●若者、高齢者の交通事故を防止しよう

宗像警察署 TEL0940-36-0110 宗像大社 TEL0940-62-1311





第五〇八回

宗像大社歌会詠草

大野展男選 毎月25日メット



池田 森 龍子

野良を打つ人のかたはら登りゆく手打ち蕎麦との幟目印に

(評)野良仕事に励む人にいささかの引け目がありながら蕎麦の味には勝てぬ作者。「幟目印」がいい。

大島 杉田 禮子

御神幸終へてもどりし船団の旗が夕への港いろどる

(評)海上パレードの余韻がこる港。大漁旗はまだ風にはためいているのだから。四、五句の緊った調べがいい。

日の里 大和 美由紀

台風風の風つよまりし放生会松馬堂の絵馬仕舞はれてゆく

(評)台風風の風に煽られて絵馬がバタバタと鳴る音が聞えてきそう。作者の物を見る目が効いた作品。

大井 木原 ふさ子

幼児の指さす昼の半月にまだ気付かずにをり母親は

(評)目が効くと言えば、この作品は純真な幼の目が見付けた昼の半月。子育て疲れなのかまた気がつかずにいる母親を詠い、一枚の童画風である。

福岡 中村 勇

車窓より見る故郷の峡深く宮の銀杏の黄葉かがやく

(評)故郷は遠くても近くても懐かしいものである。産土神とあれば尚更である。「もみちかがやく」が印象深い。

曲 天野 玲子

ケータイを互みに持ちて知らせ合う七十過ぎたる我ら夫婦も

(評)ありのままを詠い好感が持てる反面、全部言い切つて余情に乏しいのが惜しい。

田野 森 つるの

陶芸に興味持つ嫁が作りたる見馴れぬ形の食器増えたり

(評)嫁の趣味を肯定しつつも、分厚く重い食器が増えてゆくことに少々迷惑している作者の心情をのぞかせている。結句は「増えゆく」と現在進行形にした。

鐘崎 安永 久子

効目あるような気がする娘のくれし磁気ネックレス身につければ

(評)氾濫する健康グッズ、どれだけ効くのか疑いながらも作者は、娘の呉れたものを信じようとしている。ペーソスとユーモアのある一首である。

上八 田志 紀代子

干し終えし畳を踏み夏陽の温み伝い来わが足裏に

(評)夏の陽なら「熱伝い来」。温み伝い来、なら秋の陽がふさわしい気がするが、そこは私と作者の感覚の相違でこだわる事ではないだろう。畳干しにこそ良く疲れた作者が見える。

光岡 河村 久光

ゲームボーイ独り楽しむ男おり小虫飛びの電灯の下に

(評)ゲームボーイと男との結び付きが今一つ判らないが、下句にはゲームに熱中する男にふさわしい雰囲気がある。

選者 詠

来島海峡

来島海峡すぎゆく船をゆかしむと渡船は大きく面舵を切る

栄螺焼く燠あかかと熾りて来島海峡ひるの月浮く

坐りゑし人立ちゆけば人の来てまた坐るなり浜の流木

ゆきなつ舷うちてひびきあぐ旧十七日の潮の流れは

宗像大社歌会

俳句作品集(四八三)

光岡 井上 嘉治

豊の看護婦手折る枯草

こをろぎのかすかに秋桜ゆらしけり  
潮の香を乗せて跳ね橋渡る船

日の里 花田いつ枝

今日の月忍び返しの透けるたり

東郷 宗風社俳句会

従軍記思出綴る秋灯

追はれつつ追ひつ舞ひ来し夏の蝶

土用波磯の祠の見え隠れ

コスモスの影定まらずゼツト音

台風の予波に吹かれつ大根時く

編集後記 文化芸術の秋も終ろうとして、菊花展に代表される様々な神賑行事が、紙面の通り開催されました。その中の短歌大会でのひとコマです。御年八十八歳、永年農業の合間に歌を作り続けることに、当大社を篤く崇敬されてきました。お孫さん勿論私より年上です。は当大社の巫女も務められ、現在は「原の母です」そんなお孫さんやんは前々から痛めていた足が悪化したため、歌会互選会も退会され、大会参加も今回が最後と引退を宣言されて、臨んだ当日...

「お神様」はみていました。  
神社に照り初む朝日のかげやきに  
白衣の巫女の姿浮き立つ  
特別賞という有終の美を飾られ、表彰式での笑顔が特に印象的でした。(M・O)

宗像大社事務所 発行所

〒811-3505 福岡県宗像市田島  
電話 0940-62-1331(代)  
発行人 伊藤佳和  
編集人 大塚宗延  
制作 ジーエータップ  
印刷 セネラルアサヒ

定価1年送料共1,000円